琉球大学学術リポジトリ

# 農家経済において蔗作収入はどのくらい占めているか



| メタデータ | 言語: |
| --- | --- |
| | 出版者: 琉球大学農家政学部 |
| | 公開日: 2011-07-05 |
| | キーワード (Ja): |
| | キーワード (En): |
| | 作成者: 池原, 真一, Ikehara, Shinichi |
| | メールアドレス: |
| | 所属: |
| URL | http://hdl.handle.net/20.500.12000/20987 |

# 農家経済において蔗作収入はどのくらい占めているか

## 1. はじめに

1カ年間に農家にはいってくる農業収入金額の中、どの部門からの収入がもっとも多いのか、即ち畜産部門からの収入なのか、それとも作物部門からの収入なのか、又作物部門だとすればどの作物からの収入が一番多いのであろうかということについて考えてみたいと思う。1962年、63年の両年において蔗作農家が製糖工場に販売した原料蔗茎の価額はそれぞれ2,917万弗、2,865万弗余で、これを1蔗作農家当りについてみれば62年期が503弗、63年期が482弗余となっている。これは全琉球の平均なので地区や階層によっても差があると思う。それに次に農家経済との関係についてみてみよう。

## 2. 農業収入と蔗作収入との関係

農家経済において農業粗収入および現金収入中甘蔗作からの収入が占めている割合はどうであろうか、粗収益についてみれば、1959年までは価格において甘藷や畜産物収入よりも少なく、比率においては甘藷27.1%畜産物収入の26.8%に次いで15.8%（砂糖収入も含む）を占めるにすぎなかったが、1960年には第1表のように価額においても比率においても甘藷をはるかに上廻り第1位の畜産物収入に近づき、1961年以降ついに第1位を占めるようになった。

甘蔗栽培の魅力はなんと言ってもまとまった現金収入がはいるということである。現金収入については1960年から畜産物収入を上廻り第1位を占め、比率においては3分の1以上の36.5%に上昇し、61年には更にこれが増加し47.8%の多きを占めるようになり、62年には62.4%と著るしい成長率をみせている。

第1表　**農業粗収入および現金収入額の推移（1農家当り）**

| | 1960年 | | | | 1961年 | | | | 1962年 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 総額 | % | 現金 | % | 総額 | % | 現金 | % | 総額 | % | 現金 | % |
| | $ | | $ | | $ | | $ | | $ | | $ | |
| 米類 | 45.72 | 10.0 | 15.48 | 4.7 | 31.80 | 7.1 | 7.20 | 2.1 | 30.12 | 5.2 | 9.12 | 1.8 |
| 麦類 | 0.36 | 0.1 | 0.12 | 0.0 | 0.24 | 0.1 | 0.12 | 0.0 | 0.24 | 0.0 | 0 | 0 |
| 大豆 | 3.60 | 0.8 | 1.32 | 0.4 | 2.76 | 0.6 | 1.32 | 0.4 | 2.16 | 0.4 | 0.84 | 0.2 |
| 甘藷 | 72.00 | 15.8 | 4.08 | 1.2 | 61.80 | 13.8 | 3.84 | 1.1 | 39.84 | 6.9 | 2.16 | 0.4 |
| 砂糖 | 20.28 | 4.4 | 20.04 | 6.0 | 13.08 | 2.9 | 12.96 | 3.8 | 5.64 | 1.0 | 5.64 | 1.1 |
| 甘蔗 | 101.28 | 22.2 | 101.04 | 30.5 | 148.56 | 33.2 | 148.44 | 44.0 | 301.68 | 52.3 | 301.68 | 61.3 |
| 野菜 | 48.12 | 10.6 | 32.28 | 9.7 | 50.52 | 11.3 | 34.44 | 10.2 | 48.96 | 8.5 | 33.48 | 6.8 |
| パイン | 27.60 | 6.1 | 27.48 | 8.3 | 14.40 | 3.2 | 14.28 | 4.2 | 15.24 | 2.6 | 15.12 | 3.1 |
| 其他作物 | 7.80 | 1.7 | 7.44 | 2.2 | 5.64 | 1.3 | 5.40 | 1.6 | 4.08 | 0.7 | 3.84 | 0.8 |
| 畜産収入 | 122.16 | 26.8 | 117.72 | 35.5 | 111.00 | 24.8 | 104.64 | 31.0 | 120.96 | 21.0 | 113.88 | 23.1 |
| 農産加工 | 3.48 | 0.8 | 1.20 | 0.4 | 2.76 | 0.6 | 1.08 | 0.3 | 3.60 | 0.6 | 2.40 | 0.5 |
| 農業雑収入 | 3.36 | 0.8 | 3.12 | 1.0 | 4.32 | 1.0 | 3.96 | 1.2 | 4.56 | 0.8 | 4.20 | 0.9 |
| 計 | 455.76 | 100 | 331.32 | 100 | 446.88 | 100 | 337.68 | 100 | 577.08 | 100 | 492.36 | 100 |

甘蔗および砂糖の収入額が急に増加したのにひきかえだんだん収入が減少しているのは米、麦および甘藷の収入で、野菜および畜産物収入額は年によって増減がみられる。

現金収入については甘蔗よび砂糖と畜産物との関係をみれば、1959年には畜産物収入の方が甘蔗および砂糖収入よりも38%の増収となっているが60年には甘蔗および砂糖収入の方が畜産物収入よりも3%位高くなっている。61年にはそれが54%の増収となり、更に62年には3倍近くの収入増となっている。↗

次に年度別の増収額および割合をみれば、甘蔗および砂糖収入の年次別成長率は、粗収入、現金収入とも61年は前年に対し33%の増加で、62年には粗収入、現金収入とも90%の大巾な増加となっている。

甘蔗および砂糖の粗収入と現金収入額を地区別にけんとうしてみよう。1960年の甘蔗および砂糖の粗収入、現金収入の最高は宮古地区で、これは最低の中部地区に対し粗収入、現金収入とも4倍を上廻り又全琉平均に対し両者とも2倍を上廻っている。1961年も粗収入、現金収入の首位は宮古

**第2表　甘蔗の祖収入と現金収入額と割合（地区別）（1農家当り）**

| | | | 北部 | 中部 | 南部 | 宮古 | 八重山 | 全琉球 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1960 | 祖収入 | 実数 | $ 75.72 | 69.24 | 132.48 | 282.00 | 145.92 | 121.56 |
| | | 割合 | 18.0 | 20.7 | 26.3 | 90.4 | 17.8 | 26.7 |
| | 現金収入 | 実数 | 75.72 | 69.00 | 132.24 | 281.40 | 143.40 | 121.08 |
| | | 割合 | 27.8 | 29.3 | 35.9 | 79.7 | 21.0 | 36.6 |
| 1961 | 祖収入 | 実数 | 100.20 | 69.39 | 193.44 | 384.72 | 195.72 | 161.64 |
| | | 割合 | 25.4 | 23.4 | 36.4 | 68.2 | 36.0 | 36.2 |
| | 現金収入 | 実数 | 100.20 | 69.24 | 193.20 | 384.72 | 194.64 | 161.40 |
| | | 割割 | 36.2 | 32.7 | 48.5 | 84.9 | 44.8 | 47.8 |
| 1962 | 祖収入 | 実数 | 252.00 | 173.32 | 390.60 | 532.08 | 304.68 | 307.32 |
| | | 割合 | 46.8 | 43.5 | 53.6 | 76.3 | 52.1 | 53.3 |
| | 現金収入 | 実数 | 251.88 | 172.08 | 390.48 | 531.36 | 304.44 | 307.32 |
| | | 割合 | 58.3 | 51.4 | 61.4 | 88.1 | 58.3 | 62.4 |

地区で、最低の中部地区に対し粗収入、現金収入とも5.5倍以上である。宮古地区は第2位の南部地区に対しても両者ともおよそ2倍近くの収入をあげていることがわかる。

1962年期も粗収入、現金収入の最高は宮古地区でその最低が中部地区であることは前2カ年と同様であるが、最高に対する全琉平均および第2位との開きは大部ちぢまってきている。宮古地区では現金収入額の9割近くが甘蔗および砂糖の収入額に依存しているため糖価の変動や甘蔗作の豊凶は直ちに農家経済に大きな影響をおよぼすものである。

## 3. 農家の家計費中に占める蔗作収入

1960年以降3カ年間における地区別の農家家計費中、現金支出額ををみれば第3表のように、各地区とも年々家計費の増加がみられ農家生活の向上が伺われる。

家計費支出の最高は各年次を通じ中部地区で、最低は60年、61年は宮古地区、62年は北部地区となっている。最低地区に対する最高地区の家計支出の増加割合は60年が57%、61年40%、62年37%と年々その開きは低減しつつある。即ち生活程度の地域的格差が段々ちぢまっていくということを示すものである。

家計費中の現金支出額は年と共に増加しているが特に62年は各地区ともその支出は増加し、前年に対し北部地区では74.52弗、中部地区89.04弗、南部地区9.32弗、宮古地区102.24弗、八重山地区

6.86弗で全琉平均においても 80.28弗の増加となっている。

家計の現金支出中に占める甘蔗および砂糖の現金収入額の割合は各地区とも年々上昇を辿っている。宮古地区では家計費現金支出額の甘蔗および砂糖の 現金収入額の 依存度が高く60年 では84%61年期では完全に家計費中の現金支出額をまかな

**第3表　家計費の現金支出額と蔗作収入比率**
**（1農家当り）**

| | | 北　部 | 中　部 | 南　部 | 宮　古 | 八重山 | 全琉球 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 60 | 家計費の現金支出 | $ 362.04 | 522.72 | 423.36 | 333.84 | 450.00 | 429.84 |
| | 蔗作収入家計費 | 21% | 13 | 31 | 84 | 32 | 28 |
| 61 | 家計費の現金支出 | 387.00 | 541.32 | 504.72 | 386.88 | 492.72 | 472.56 |
| | 蔗作収入家計費 | 26 | 13 | 38 | 99 | 40 | 34 |
| 62 | 家計費の現金支出 | 461.52 | 630.36 | 599.04 | 489.12 | 499.68 | 552.84 |
| | 蔗作収入家計費 | 55 | 27 | 65 | 109 | 61 | 56 |

い、62年期からは家計費の現金支出額を完全にまかなった上なお1割近くの余剰を生じている。蔗作収入への依存度のもっとも低い地区は中部で、62年期において27%しかまかない得ない実情で、大部分が農業外収入特に基地収入に依存している現情である。

## 4. む す び

1農家当りの農業粗収入および現金収入中に占める蔗作収入を、総額と現金の面について年次別、地区別にけんとうするとともに、家計支出に対する蔗作収入の役割等についてもみてきたが、蔗作収入は農業収入の面および家計支出の面においても大きな比重を占めていることがわかる。従って糖価の著るしい変動は農家生活に大きな影響をおよぼすので、農家生活の安定はまず糖価の安定からと言っもあえて過言ではなかろうと思う。

**（池原真一）**